



自主 友愛 好學

薩摩川内市立川内中央中学校

自主 友愛 好學

「〇〇の秋」

校長 上栗 博文

10月も半ばを過ぎましたが、日中は例年以上に厳しい残暑がいつまでも続いています。秋の到来をなかなか感じられませんが、学校では「芸術の秋」、「スポーツの秋」など、様々な「〇〇の秋」に関わる活動が行われています。

10月6日には本校吹奏楽部の第32回定期演奏会が開催されました。今年も、SSプラザさんだいで多目的ホールを埋め尽くすほどの多くの参観者の前で、吹奏楽部の皆さんが素晴らしい演奏を披露してくれました。11月は多くの団体から出演依頼を受けている吹奏楽部です。今後の活躍も大いに期待されています。

10月8・9日には地区新人大会が行われました。本校から出場した選手の皆さんは、一戦一戦を精一杯取り組み、それぞれに大きな成果を得ることができました。この大会で得た学びを今後の練習に生かし、更に大きく成長した姿で来年の地区総体に臨んでほしいと思います。

11月7日には県中学校駅伝大会が開催されます。本校の陸上部は、昨年に引き続き、男女とも県大会への出場権を獲得しています。出場する選手の皆さんは、更なる高みを目指して、練習の成果を存分に発揮してくれることと思います。

また、各部活動の取組と並行して、学校では11月1日に開催予定の文化発表会に向けた準備も進められています。各学年・各学級の生徒が、舞台発表や展示発表に向けて協力して取り組んでいるところです。「かごしまの教育県民週間」の期間でもあることから、多くの皆様のご来校を心からお待ちしています。

さらに、生徒会の地域貢献活動として、10月20日に開催された川内地区「秋まつり」の運営補助に多くの生徒が参加しました。11月24日には平佐西地区コミュニティ協議会主催の「生涯学習フェア」において、生徒会役員が一つのブースを運営する予定です。地域の方々との触れ合いを通す中で、生徒自身に地域の一員として地域に貢献する意識をもたせるよい機会であると考えます。今後も、地区コミュニティ協議会との連携を通して、地域貢献を視点とした活動を進めていきたいと思っています。

さて、これからの季節は、「読書の秋」でもあります。すでにお知らせしてありますように、本年度は、本市のすべての学校で「一日20分親子読書」が推奨されています。読書に適したこれからの季節に、ご家庭で読書に親しむ機会をつくっていただければと思います。ちなみに、「読書の秋」は夏目漱石の代表作「三四郎」の中の一文『灯火親しむべし（古代中国の漢詩の一説を引用したもので「秋になると涼しくなり夜も長くなって明かりの下での読書が適している」という意味）』が由来とされているそうです。（諸説あります。）

よき伝統を引継ぎ、新たな川内中央中をめざして～新生徒会発足・始動～

9月27日の生徒会役員選挙で、生徒会長・副会長(2名)が選出、その後、書記、会計、各専門委員長・副委員長の執行部役員が選出・承認され、第44代生徒会が発足しました。10月22日(火)の任命式・引継ぎ式では、新旧役員があいさつを行いました。新役員は「これまでのよき伝統を引継ぎ、よりよい川内中央中をめざして一生懸命取り組んでいきたい」と決意を述べました。自主的・自治的な生徒会活動を通して、生徒一人一人がよりよい人間関係を築きながら、過ごしやすく、自分を高めていくことのできる学校を築いていってほしいと思います。

生徒会長 森田 華菜子 生徒会副会長 鬼塚 彩句來
山口 凌央



居場所・絆づくり

芸術鑑賞 劇団風の子九州
『日記図書館』～私は私を生きていく～

10月22日（火）、福岡に拠点を置く「劇団風の子九州」の皆さんに来ていただき、芸術鑑賞を開催しました。2回の公演（1・2年生は3・4校時、3年生は5・6校時）を行い、全学年が『日記図書館～私は私を生きていく～』という演劇を鑑賞しました。劇のあらすじは次の通りです。

主人公である高校2年生の綾は、一匹の猫と出会ってから不思議な事が起こるようになります。そんな中、綾が「日記図書館」という建物で見つけた戦時中の海軍飛行予科訓練生の直二郎の日記を読むと、書いた本人である直二郎が綾の前に現れます。二人で現代と過去を往復しながら、戦時中の言論統制や弾圧、便利で自由な現代社会、二人はそれぞれが生活している時代との違いに大変驚かされます。やがて、直二郎は特攻隊として旅立ちます。これまで自分の気持ちを抑える生き方をしてきた綾でしたが、戦時下の中、懸命に生きる直二郎との出会いにより自分の生き方を変えていきます。…「私は私を生きていく」

【生徒の感想】

- 最後、特攻隊に志願し、南の海に散ってしまったところが印象に残りました。綾と私でも共通点があり、私も綾の気持ちになれました。そして、数か月前に行った特攻平和会館を思い出しました。(1年女子)
- 戦争での不自由さが感じられました。発言や服装など、たくさんのことを気をつけないといけない戦時中は大変そうでした。今が本当に自由があるということを感じることができました。(2年男子)
- 初めはなかなか自分らしくいられない綾に共感したり、もやもやする部分もあったけど、段々と自信をもって勇気を出せるようになっていく姿がとてもかっこよかった。戦争の時代を生きる直二と現代を生きる綾が意気投合して、お互いを支え合う関係もとてもいいと思った。(3年女子)



青少年育成の日のつどい・子ども会大会

10月19日(土)、「青少年育成の日のつどい・子ども会大会」が開催されました。今年度は、川内中央地区青少年健全育成会が活動発表となっており、健全育成会の会長である本校の常盤PTA会長が発表を行いました。中央地区青少年健全育成会は、今年度、次の3つを努力点に掲げ、子どもたちの健全育成に取り組んでいます。

- 1 学校・家庭・地域社会が一体となって、青少年の健全育成のために力を合わせて、良い環境づくりに努める。
- 2 声かけ運動を広げ、問題行動等の未然防止と安全の確保に努める。
- 3 地域子ども会活動に積極的に参加する子を育成する。

大会では、こうした努力点を基に、各学校区単位で取り組んできた様々な活動が紹介されました。「地域との灯籠づくり、伝統文化の継承棒踊りの取組（平佐東小）」「地域素材を生かした長崎堤防での凧あげ大会、八間川でのカヌー教室、うなぎ稚魚の放流（峰山小）」「炊き出し等PTAの協力による子ども大綱引きへの取組（川内小）」「校区の方々との交流活動、地域の協力による安全見守り・あいさつ運動、はんや祭りへの参加（平佐西小）」「生徒会を中心とする川内川花火大会ボランティア活動、PTA生活指導部による声かけ・補導、地区コミュニティへの運営協力（川内中央中）」各地区・学校の特性を生かしながら、子どもたちの健全育成のために、学校・家庭・地域社会が一体となった取組が実践されています。今後も中央校区が、しっかりと繋がりながら、子どもたちが夢を叶えるために飛躍できる環境づくりに努めていけたらと思います。

